

「心・技・体」を鍛え上げ初場所に挑戦!

豪風関、そして 尾車部屋の力士たち

一月初場所を控えた尾車部屋を訪問



けいこを行う豪風関と
尾車部屋の力士たち

東京、清澄の朝。師走の冷気が隅田川を渡り、下町の喧騒が始まります。凜と張り詰めた空気の中、土俵の上で汗と土にまみれて稽古するのは尾車部屋の力士たち。本市米内沢出身の幕内力士・豪風関（本名＝成田旭）が所属しているのが、この尾車部屋です。

現在19人の力士が所属する尾車部屋の親方は元大関琴風。豪風関は平成14年に尾車部屋に入門、短期間で番付を上げ、現在は部屋で最高位の力士となっています。

尾車部屋の関取（十両以上の力士）は豪風関のほか若兎馬関、新番付で新入幕となった嘉風関の3人。幕下から序の口までの若い力士たちも昇進をめざして毎日の稽古に励みます。

部屋の1日は朝6時過ぎからの若手のけいこに始まり、午前11時頃まで続きます。上位力士は自主性にまかせられています。稽古熱心な豪風関もこの日午前8時過ぎには稽古場に現れ、稽古を始めていました。

稽古は、相撲の基本である四股やてっぽう、すり足などから始まり、土俵で行うぶつかり稽古、実力が近い者同士で行う三番稽古などと続きます。

指導を行うのは親方衆。尾車部屋には、師匠である尾車親方のほか元大関大麒麟の押尾川親方（年寄）、元青葉城の不知火親方（同）、元十両の乾龍さんの4人の指導者がいます。

部屋を訪れたこの日は、尾車親方と不知火親方が厳しい目で稽古を見つけていました。

大相撲の部屋の数は現在54。力士の数は700人を上回ります。このうち関取の数は70人ほどと、全体の1割。つまり、10人に1人しか関取にならない厳しい世界なのです。

豪風旭（たけかぜ あきら）……本名・成田旭。昭和54年6月生まれ。旧鷹巣町、森吉町の小中学校を経て金足農業高校に入学、本格的に相撲を始める。中央大学時代は学生横綱など7つのタイトルを獲得、大相撲・尾車部屋へ入門。幕下15枚目格付け出して初土俵を踏み2場所で十両昇進、平成15年秋場所で十両優勝。初場所の新番付では自己最高位となる西前頭3枚目に付け、上位進出を伺う。身長172センチ、体重144キロ。家族は父・三男さんと母の絹子さん、兄・誠さんの3人。

若兎馬関

嘉風関

豪風関

豪風関の身長は172センチと幕内力士の中では最も低い。しかし、強い腕力や瞬発力を生かし「突き」「押し」にこだわる。